

改題 土楽たより

どうらく Kogure 農場 5月号 (NO85)

2017年5月10日 (水) 発行 (毎月10日)

【農暦】五月晴れに恵まれても！

○朝、雨戸を開けると陽射しを受けて瑞々しい新緑が勢いを増しているのを感じた。新緑に浄化された空気が肌に触れ気持ちが良い。清浄な湿っとり感は何とも言いようのない心持のよいものがある。小さな庭が新緑でいっぱいである。憲法記念日の翌日(4日)の朝である。新緑が眩しい。この時季が好きだ。新聞に、北酒場などの作詞家として高名な、なかにし礼さんが「この気配を止めないといけません。日本の指導者は『どんなことがあっても戦争は回避します』と言うべきです。略、このままだと戦争になってしまう」と憲法についての発言が載っていた。今の政治的、社会的な閉塞感、新緑の眩しい瑞々しい景色になじまない。違和感がある。特に政治家にはとりたいが、この新緑を愛で畏敬の気持ちがあれば、この状況は、少しは変わるのではないかと訳の判らないことを、新聞を読みながら考えていた。このもやもやとした閉塞感から遁れたくなり、新聞を閉じ外へ出たくなった。

○歳時記に“ものみな生き生きとする季節 一清明から穀雨へ”とあった。今日は穀雨の末候に当たる。5日は立夏である。24の節気の中で、一番命が輝く時季である。“清明につづく穀雨のよき日かな (川崎展宏)”の句もある。この荒んだ閉塞感が漂う社会状況を、この新緑で浄化できないものかと夢想もしたくなる。この新緑を焼失しても良いと思う人はいないと思うのだが、軍事デモ(抑止)、制裁の文言が飛び交い、憲法九条が危くなって来ている。なかにし礼さんからヒット曲とは全く別物の悲痛な叫びが伝わってくる。憲法記念日の関連のテレビニュースを見ながら、新緑の時季に、そぐわない行き場を失った重いものを更に感じた。五月晴れに恵まれても“よき日かな”にならなかった。

○仏の座やオイヌノフグリには申訳ないが除草させてもらう。少しの努力の成果か草が畑の部分から消えて来ている。思入れ深い菜園のレベルには無いが少し景色が変わって来ている。今は草の勢いもさほどでもない。それに、農作業が一番楽しい時である。この状態をkeepすることが課題である。ピッコロファームの会のKさん(先月号のkさんではな



<柏の農業公園のチューリップ>笠間からyさんが来られたので。会えなかったが。 17日撮影

い)が今年も青茄子の苗をお裾分けしてくれるという。有難い。先日は元会社の友人が大和芋の種芋を持ってきてくれて植え込み作業を一緒にしてくれた。そろそろ芽が出るころである。この大和芋の支柱と茄子、トマトの支柱などタイミングを見て実施したいと思っている。柏の農業公園で見た方法でやりたいと思う。八ヶ岳高原の農業大学校で見た2M程に伸びた茄子の支柱に似ているからである。遅くなっていたが、トマトと落花生をポットで少しだけ育苗している。先月那須で分けて頂いて蒔いた人参、ほうれん草、隠元の発芽も楽しみである。気持ちを切り替え、農を楽しみたいと思っている。今が一番いい時期なのだから、。

【楽農】ネギ類の植え替えなどから！

<畑A> ; ネギ類の植え替え、食用菊の植え替え、大和芋
 植込み、隠元、人参、ほうれん草などの播種。
 耕起（継続）。草払い機で除草。
 アスパラ、ほうれん草の収穫。

<ハウス> ; 片付け

<畑B> ; トラクター耕起後は特になし



<茄子の2本仕立ての支柱>
 柏農業公園で。17日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ; TBG 総会 (12日) 柏リボン館の講座 (*) (15日)
 山野草の会(21日)ごみを考える会総会(27日)に参加など。

*注 ; 生ごみの堆肥化講座は10年以上続けているが、今までは女性の参加がほとんどであった。今回は逆転し男性9割?で、団塊世代が定年後に菜園をやる人が増えているようだ。この世代の参加が多かった。

【つぶやき=Tweet】平安が、人生をつまらなく？

○ JR 東日本の豪華寝台列車「四季島」が5月1日から運行を開始した。北海道や東北を3泊4日で回るコースである。甲信越などのコースもあり、利用者に究極のぜいたく体験を提供するという。1泊2日から3泊4日の旅は、1人あたり32万円から105万円にまで設定されている。来年の3月分まで完売しているという。この一方では、世界中で12億以上の人々が1日わずか1ドルで生活している。20億人以上が1日2ドル未満で生活し、8億5,000万人以上が日々の食べ物にも事欠く毎日を送っている。日本では年収122万円に満たない世帯の割合（相対的貧困率）は16.1%で子供のいる世帯では16.3%となり、ともに過去最悪を



<農家食堂>自分で採ってそのまま食べる。柏農業公園で。17日撮影

更新した。6人に1人が貧困の中いる。1回の旅で年収分に近いお金を使うことになる。贅を尽くした商品には戸惑ってしまう。素直に喜べない。

○「朝の紅顔夕べの白骨」を読んだ。山梨県北杜市で無農薬有機農業を始め今も続けている故菅原文太の妻・文子さんのエッセイである。4頁の短文の中に、今の日本の政治・社会問題についての的確に言い当てていた。明快な指摘に頷く事ばかりであり、全文を引用したくなる程である。安倍内閣の支持率が大きく落ちない不思議については、

“極限まで人々を消費に駆り立てる。絶え間ないスポーツ、文化イベントを含めた消費という快樂に溺れているうちに幼稚化し、イージー、シンプル、ファストの三つが支配する社会となり、それは成熟より後退を促す。かくして生まれた幼稚的社会が安倍総理の分かりやすい幼稚性を支持しているのかもしれない。”と言っている。森友につづき加計学園の疑惑、相次ぐ大臣暴言があっても内閣支持率が落ちない理由が少しわかったような気がする。イージー、シンプル、ファストの反対は、タフ

(「tough」「difficult」「hard」)、コンプレックス

(Complex; 複合した、入り組んだ)、スロー (slow)

になる。今の世相に反発してスローライフ、スローフーズと言ひ実践している人もいる。○先述のなかにし礼さんが“憲法は芸術”と言ひ「理想の実現は簡単じゃない。でも理想を忘れたたらむごたらしい現実しかないんです」と言っている。改めて憲法の前文を読んで見た。それから9条を読む。戦争を体験した人は少なくなっているが、満州で、関東軍を、軍隊が何をしたかを体験した人の憲法へ思いは深い。ないがしろにされた時の怖さを知っている。安保法制で平和憲法が骨抜きの危機にある。戦争への道をどんどん進んでいくようで怖い。アメリカ、西欧、日本など、グローバルから反転し、国家主義的傾向など右翼的政治状況になると、あのヒトラーが今日の政治状況を予言していたと謂う。怖い話である。高須クリニック院長が“芸術は、つかいものになりません”と皮肉られているが、予言はヒトラーの現実認識から発したものだと思う。なぜ“理想でなく現実”なのだと言いたくなる。理想の憲法は70年間平和を維持したのである。これからもとなぜ言えない。平和のために戦争などと言わないで欲しい。憲法記念日故も重いものに。

○“心の平安というものは楽ではあるだろうけれど、無気力になり、人生がつまらなくなりそうだ(小池龍之介)”この文言が気になった。心の不安も、良いかと思う。

【後記】新緑が山に、野に、いっぱいです。笠間に、kogure農場にお越し下さい。



<江戸時代はゴミゼロ社会>
柏リボン館の壁に。15日撮影

発行者; kogure農場・小暮虎雄

住所; 笠間市本戸4201-10

携帯電話: 090-9333-4135

メール; torao-k@nifty.com

HP; <http://ayaharu.my.coocan.jp>